

平成22年度評価問題「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査） 小学校5年 理科 出題のねらい等

連番	大問	中問	小問	領域及び学年	学習指導要領の内容		出題のねらい	観点				主に「知識」に関する問題	主に「活用」に関する問題
								自然事象への 関心・意欲・ 態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象につ いての知識・ 理解		
①	1	(1)		生物とその環境 5年	A（2）イ	人の発生や成長	人は、母体内で成長し、生まれることを理解していること。				○		○
②		(2)		生物とその環境 5年	A（2）イ	人の発生や成長	人は、母体内でへその緒を通して母親から養分をもらって成長することを理解していること。				○	○	
③		(3)		生物とその環境 5年	A（2）イ	人の発生や成長	人の発生や成長について、関心をもっていること。	○					○
④		(4)		生物とその環境 5年	A（2）ア	動物の発生や成長	メダカを適切に飼育することができること。			○		○	
⑤		(5)		生物とその環境 5年	A（2）ア	動物の発生や成長	解剖顕微鏡を正しく使用することができること。			○		○	
⑥		(6)		生物とその環境 5年	A（2）ア	動物の発生や成長	メダカは、誕生直後には、はらの中の養分で育つことを理解していること。				○	○	
⑦	2	(1)		地球と宇宙 4年	C（2）ア	水の状態変化	実験結果をグラフで表すことができること。			○		○	
⑧		(2)		地球と宇宙 4年	C（2）ア	水の状態変化	実験結果のグラフから、凍り始めから全部の氷が凍るまでの時間を考えることができること。		○				○
⑨		(3)		物質・エネルギー 4年	新A（2）ウ	水の状態変化	水が氷になると体積が増えることを理解していること。				○	○	
⑩		(4)		地球と宇宙 4年	C（2）イ	水の状態変化	水蒸気は冷やされると結露し、再び水になって現れることが説明できること。		○			○	
⑪		(5)		地球と宇宙 4年	C（2）イ	水の状態変化	水は自然蒸発することをもとに、水滴が消えたわけを説明できること。		○				○
⑫		(6)		物質・エネルギー 4年	新A（2）ウ	水の状態変化	氷が融けて水に戻ると、体積はもとの水と同じになると考えることができること。		○				○
⑬	3	(1)		生物とその環境 5年	A（1）イ	植物の発芽	発芽に必要な「水」について調べるために、条件を統一することができること。			○		○	
⑭		(2)		生物とその環境 5年	A（1）イ	植物の発芽	発芽に必要な「適当な温度」について調べるために、条件を統一することができること。			○		○	
⑮		(3)		生物とその環境 5年	A（1）イ	植物の発芽	水中の種子に発芽に必要な「空気」を送るための方法を考えることができること。		○				○
⑯		(4)		生物とその環境 5年	A（1）イ	植物の発芽	植物の発芽には、「水」「空気」「適当な温度」の3つの条件が必要で、「肥料」は必要ないことを、実験結果から考えることができること。		○				○
⑰		(5)		生物とその環境 5年	A（1）ア	植物の発芽	植物の種子にはでんぷんが含まれていることや、ヨウ素でんぷん反応について理解していること。				○	○	
⑱	4	(1)		生命・地球 5年	新B（4）ア	天気の変化	晴れの日と雨の日の雲の量や色には違いがあることを理解していること。				○	○	
⑲		(2)	ア	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	気象情報から、雲の動きにきまりがあることを読み取ることができること。			○		○	
⑳			イ	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	気象情報の雲の動きから、晴れた理由を考えることができること。		○				○
㉑		(3)	ア	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	気象情報の雲の動きから、翌日の天気を予想することができること。		○				○
㉒			イ	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	気象情報の雲の動きから、翌日の天気を予想した理由を説明できること。		○				○
㉓		(4)	ア	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	台風に関する気象情報から、台風の動きを読み取ることができること。			○		○	
㉔			イ	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	台風が接近してくると、降雨量や風力が変化することを理解していること。				○	○	
㉕			ウ	地球と宇宙 5年	C（1）イ	天気の変化	台風接近に伴う災害防止対策について関心をもっていること。	○					○